

クローゼットドア 片開き戸①

■施工される方へお願い

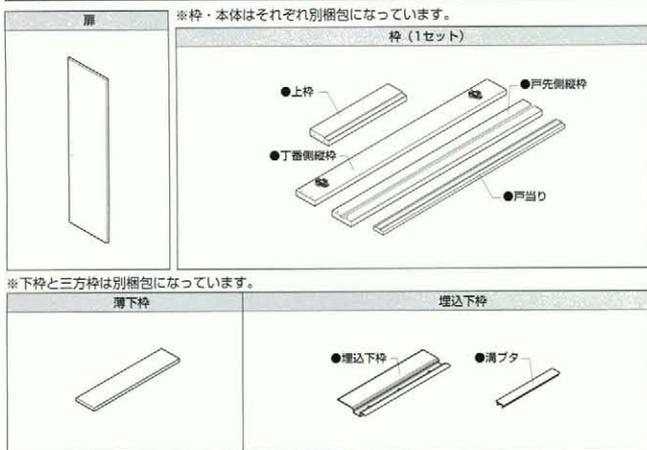
●本説明書で使われているマークには以下のような意味があります。

▲注意 …取扱いを誤った場合に、使用者が中・軽傷を負う危険および物的損害の発生が想定されます。冒頭にまとめて記載していますので必ずお読みください。

■施工上のお願

- 枠取付けの際は、水準器・下げ振り等で水平・垂直を確認してください。
- 造作材・建具枠を取付ける時は、必ず木工用ボンド(現場手配)を併用してください。かい木を使用する場合は、かい木の両面に木工用ボンドを塗布してください。
- 本製品のねじ締付け時には、クラッチ付きドライバーを使用してください。締付けトルクが強すぎると、ねじが空転したり、ねじの頭がとんだり、つぶれたりする場合があります。
- 本製品の組立て・施工時には、同梱の指定ねじを使用してください。他のねじを使用すると、部品・部材の脱落や枠の垂下がり・ゆがみ等の原因となります。(本説明書内で「現場手配」と記されている場合は除きます。)
- 丁番3枚吊り、4枚吊りの扉は、最初に中間の丁番を取付け、次に端部の丁番を取付けてください。また、扉を支えている手を離す場合は、必ず丁番を2個以上取付けてからにしてください。

■各部の名称



▲注意

- 扉の脱落の原因になるおそれがあるため、下記事項をお守りください。
- 指定のねじで丁番を締付け、必ずガタツキのないように固定してください。
- 扉の吊み込みを行う場合は、扉の丁番カップがキャビネット側の扉に「カチャ」と音がするまではめ込んでください。

- 造作材・建具枠の下地材には、必ず乾燥剤(含水率20%以下)を使用し、湿潤材は使用しないでください。壁内の通気が悪く、内部結露が発生するおそれがある場合は、防水処理をしてから施工してください。
- 枠の組立て後、ねじれ・引張りなど無理な力を加えないでください。破損する原因になります。
- 造作材・建具枠と柱・間柱・まくさとの間には必ず隙間をつくり、かい木をいれてください。かい木には、合板等の乾燥材を使用し、湿潤材は使用しないでください。造作材・建具枠をコンクリートやモルタル(床面)に直付けしないでください。やむを得ず直付けする場合は、造作材・建具枠木口と床面の間に、必ず防水処理をしてください。
- 下枠の納め方に応じて縦枠を切断してください。

■縦枠の切断	
薄下枠	切断不要
埋込下枠	切断 (12mm)

■部品セット一覧

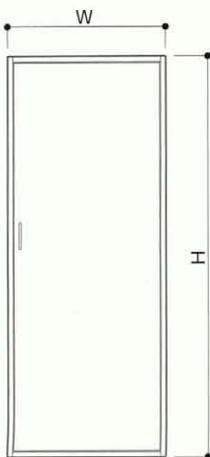
■本体部品セット				
部品名称	把手	把手取付けねじ トラスねじ M4×30	丁番カップ	丁番カップ取付けねじ 血タッピンねじ φ3.5×16
呼称	1	2	4	8
0818・0820				
■枠部品セット				
部品名称	枠組立てねじ DNビス (血木ねじ) φ3.8×65	枠取付けねじ 血タッピンねじ (頭部シート色塗装) φ4×50	戸当たり	戸当たり 取付けねじ ナベタッピンねじ 1種φ3.5×16
呼称	4	13	1	2
0818				
0820	4	15	1	2
※戸当たり・戸当たり取付けねじは使用しません。				
■下枠部品セット				
部品名称	枠組立てねじ DNビス (血木ねじ) φ3.8×50	枠取付けねじ 血タッピンねじ 1種φ3.5×50	縦枠下部ベース	縦枠下部ベース 取付けねじ 血タッピンねじ 1種φ4×20
呼称	4	-	-	-
薄下枠				
埋込み下枠	-	2	2	2

■開口部の確認

●開口部の水平・垂直を確認してください。

※開口部寸法が下記寸法になっていることを確認してください。

開口H方向:H+5mm
開口W方向:W+10mm

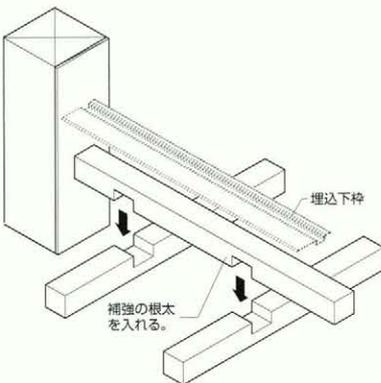


■床の張り方

【床先張り(枠後付け)の場合】

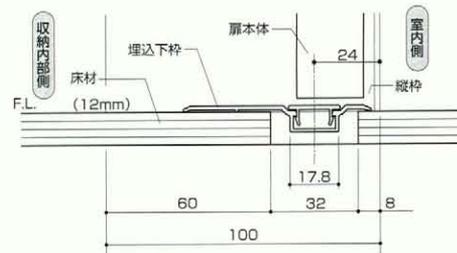
1 埋込下枠下地の確認

●枠材は捨て張り合板の上に施工するか、根太張り工法の場合は下図のように根太を入れて補強してから施工してください。下枠の破損や扉開閉不具合の原因となります。



2 床張り位置(床の張込み)

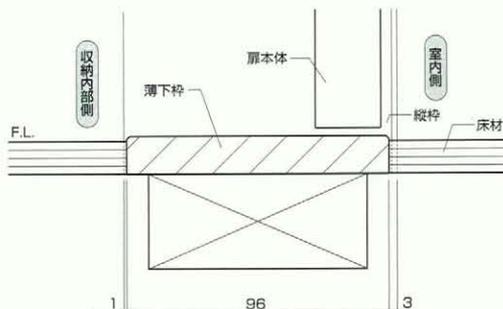
●下図の位置に32mm(最小開口25mm)あけて床材を張ってください。



【お願い】
床材は必ず図の位置に張込んでください。床材の開口寸法が大きすぎたり狭すぎると、床の隙間が見えたり埋込下枠が入りにくい原因となります。

【床後張り(枠先付け)の場合】

1 枠の取付け後、縦枠・薄下枠に沿って床材を張ってください。



規格表

特注 対応品

組立施工説明 お手入れ方法

クローゼットドア 片開き戸②

商品特長
商品一覧

室内ドア

室内引戸

クローゼット
ドア

戸襖

規格表

室内ドア

室内引戸

クローゼット
ドア

戸襖

有償部品

特注
対応品

ガラス寸法

基本寸法
納まり図

組立施工説明
お手入れ方法

発注書

用語解説
索引

■取付け詳細

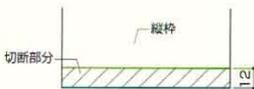
1 枠の組立て

〔床先張り(枠後付け)の場合〕

※埋込下枠セットを使用してください。

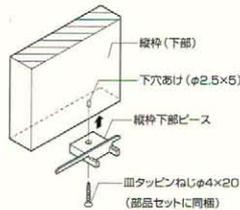


①縦枠斜線部を切断します。

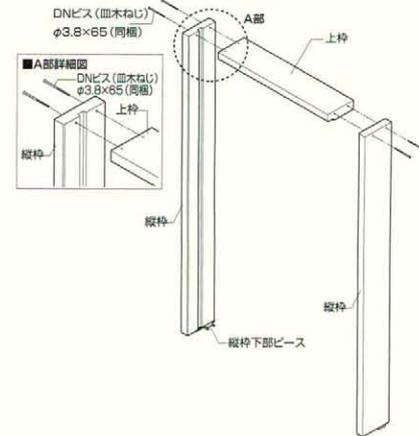


●切断寸法(12mm)は、H18の場合、床上面(F.L.)から上枠上端までの寸法を1823mm(H20=2023mm)にする場合を示します。
※現場の納まりによって加工寸法を決めてください。

②縦枠に縦枠下部ピースをねじ(皿タップピンねじφ4×20)で固定します。縦枠に下穴(φ2.5×5)をあける時は、取付説明書に載せてある型紙を使用して位置出しをすると簡単にあげることができます。

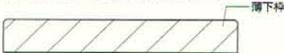


③上枠と縦枠を、DNビス(皿木ねじ)φ3.8×65で止めて枠組みします。



〔床後張り(枠先付け)の場合〕

※薄下枠セットを使用してください。



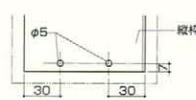
①縦枠の下端にφ5、薄下枠にφ3.0~3.2、深さ20以上の下穴をあけます。

②上枠・薄下枠と縦枠を、DNビス(皿木ねじ)φ3.8×50で止めて枠組みします。

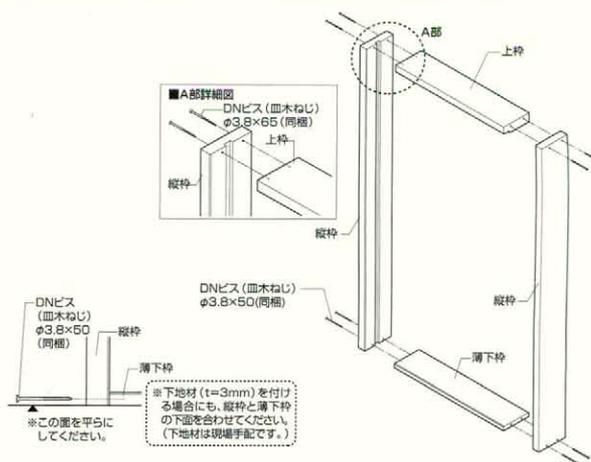
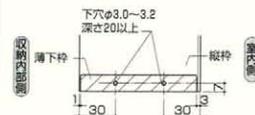
※薄下枠を組合わせる際、組合わせ面を水平に調整した後、DNビス(皿木ねじ)φ3.8×50で固定します。

〔薄下枠取付け部詳細図〕

①縦枠を切断せずに下穴をあけます。



※薄下枠は下図の縦枠との組み位置に合わせ、下穴をあけます。



規格表

室内ドア
室内引戸
クローゼット ドア
戸襖
有償部品

特注
対応品

ガラス寸法

基本寸法
納まり図

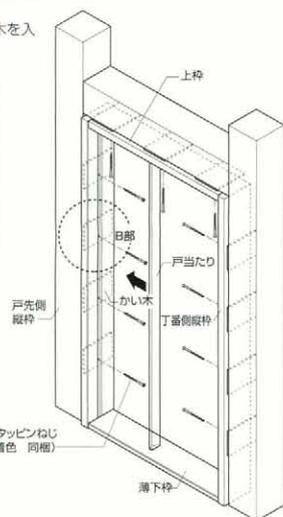
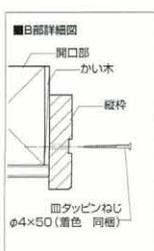
組立施工説明
お手入れ方法

発注書

用語解説
索引

2 枠の取付け

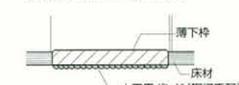
① 組立てた枠を、開口部に取り付けます。
※ 下穴に合わせてかい木を入れます。



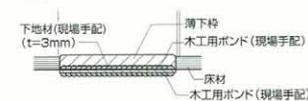
② 下枠の躯体への固定方法

〔薄下枠の場合〕

● 床材厚さ12mm
※ 必ず薄下枠に木工用ボンドを付け、躯体に固定してください。

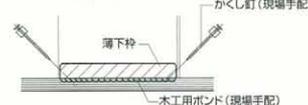


● 床材厚さ15mm
※ 必ず薄下枠と下地材に木工用ボンドを付け、躯体に固定してください。



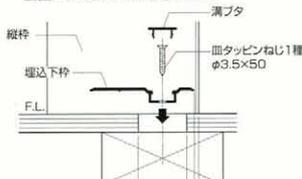
〔床先張り(枠後付け)の場合〕

● 床材厚さ15mm
※ 薄下枠は木工用ボンドを塗布し、かくし釘等で固定します。



〔埋込下枠の場合〕

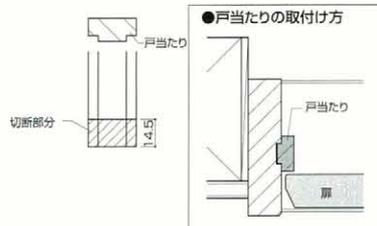
● 埋込下枠を縦枠下部ピースにはめ込み、縦枠室内側端部から3mmの位置にねじ止めし、固定します。



③ 戸当たりの取付け

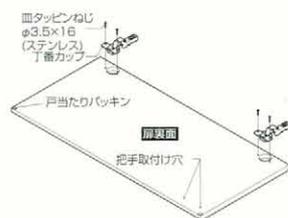
戸当たりの斜線部分を切断します。(下図参照) 戸当たりの裏面に木工用ボンド(現場手配)を付け、かくし釘で固定します。

※ 左下の図の寸法は下枠の上面から上枠上端までの寸法をH18=1820.5、H20=2020.5にする場合です。現場の納まりにより変更してください。



3 扉の吊込み

① 丁番を、同梱のねじで扉に取り付けます。
※ ねじが曲がらないように、必ず手回して取付けてください。
ねじが曲がると、扉が固定できなくなりますので、ご注意ください。
※ 扉1枚当たりの丁番数量は、以下の通りです。
0818、0820…4個



▲ 注意

● 丁番固定用のねじの締め忘れ・ゆるみ等は、扉の脱落の原因となります。必ずガタつきがないように固定してください。

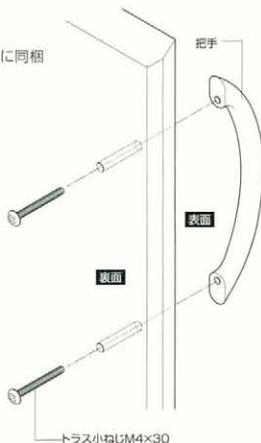
② 扉の左右勝手の確認

● 下端より上下把手穴(中心)までの寸法が917mmになります。



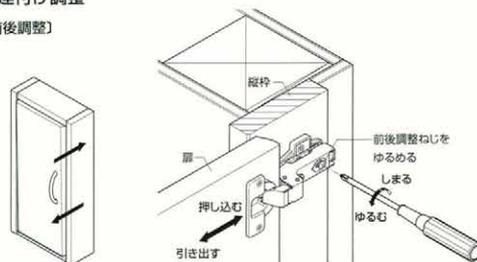
③ 把手の取付け

※ 把手セットは本体に同梱されています。

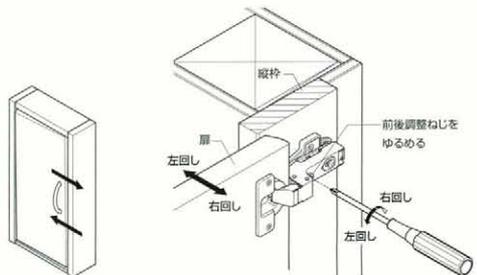


4 扉の建付け調整

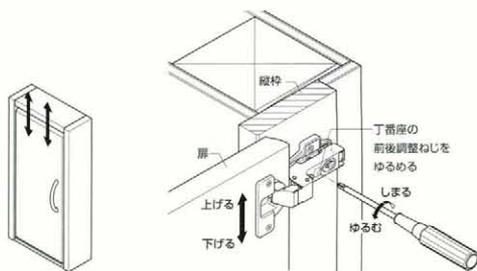
〔扉の前後調整〕



〔扉の左右調整〕

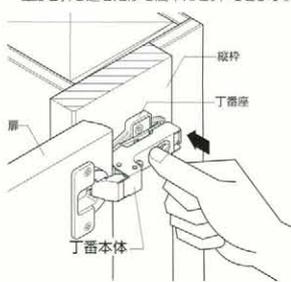


〔扉の上下調整〕

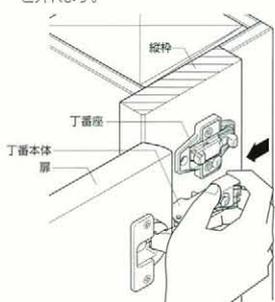


④ 扉の吊込み

● 扉の丁番本体を縦枠の丁番座にセットし、上から押し込むだけで簡単にセットできます。



● 取外す場合は、先端のスイッチ(黒色)を押し込みと外れます。



▲ 注意

● 扉の吊込みを行う場合は、扉の丁番キャップがキャビネット側の座に「カチャ」と音がするまではめ込んでください。扉の落下の原因となります。

※ 丁番は最初に中間の丁番を取付けてから、端部の丁番を取付けてください。
※ 扉を支えている手を離す場合は、必ず丁番を2個以上取付けてからにしてください。